

予習なしでも能動的な学習で「古文がわかる」実感を得られる授業

教育エジソン

次の2つのアイデアで生徒を学習に巻き込み、「やったらできた！」を体験させる授業

- (1) 同時通訳式唱和練習 (2) カンペキ単語帳

1) 準備

(1) カンペキ単語帳プリント

(2) 唱和用プリント

※実例として、『竹取物語』の冒頭と『帝の求婚』の節で作成したプリントがあります。

2) 展開

(1) 教科書を読む

①教師による朗読を聞く

②教師のあとについて、声を合わせて読む（くり返し）

(2) 「カンペキ単語帳」プリントを用いた現代語訳づくり（個人作業）

(3) 教師の補足解説を聞く（短時間、カンペキ単語の補足のみ）

(4) 唱和用プリントを用いた唱和練習

1行ずつ教師のあとについて声を合わせて読む。

次の3つのステップで進む。

①本文（教師）→本文（生徒）

追唱

②現代語訳（教師）→本文（生徒）

古文訳

=これがメイン

③本文（教師）→現代語訳（生徒）

現代語訳

（同時通訳式）

3) 解説

古典では、ずっと教師がしゃべって解説するばかりの授業が多いと思います。

この授業では、教師はほとんど説明しません。

「現代語訳を作る」「声を出して本文を読む」という学習活動が中心です。

その学習を楽しくできる仕掛けが教材プリントにあります。

授業中は、生徒の学習活動をガイドし、励ますのが教師の役割です。

〈励ますことばかけの例〉

○古文は日本語だから、カンペキ単語帳でことばの意味を補えば、現代語に訳せるよ。

○みんなは“古文の天才”だから、現代語を聞いたらすぐに古文が頭に浮かぶ、そういうイメージ。

○あとについて読んでいるときに、しっかり本文を見て、読めるように意識して。次は、自立してもらおうからね。＝現代語訳→本文 のときには自力で読めることが必要。